

第101回宇宙政策委員会 議事録

1. 日時：令和4年12月21日（水）16：00－17：00

2. 場所：中央合同庁舎4号館4階 第4特別会議室

3. 出席者

(1) 委員

後藤委員長、常田委員長代理、遠藤委員、片岡委員、櫻井委員、篠原委員、鈴木委員、松尾委員

(2) オブザーバー

森昌文内閣総理大臣補佐官、山川JAXA理事長

(3) 事務局

内閣府宇宙開発戦略推進事務局：河西局長、坂口審議官、滝澤参事官、加藤参事官

(4) 関係省庁

総務省国際戦略局宇宙通信政策課 小川課長

文部科学省研究開発局 原審議官

経済産業省大臣官房 恒藤審議官（製造産業局担当）

国土交通省総合政策局技術政策課技術開発推進室 川村室長

環境省地球環境局総務課気候変動観測研究戦略室 山田室長

防衛省防衛政策局 安藤局次長

4. 議事

(1) 宇宙基本計画工程表の改訂について

<事務局より説明>

○片岡委員 防衛関連戦略3文書が改訂されますが、この工程表の改訂には、3文書のもの、反映できるものを反映するというスタンスですか。具体的に言えば、さっきA3の1枚書きで説明していただいた1の安全保障の確保のところに、政府の構想を取りまとめた上でと。今回、宇宙安全保障構想みたいなものを作成することが安全保障戦略の中に書き込まれましたが、これは書き込まれたことでこの工程表に入ったということによろしいのですね。

○加藤参事官 今回の安全保障分野の工程表の改訂につきましては、現時点での時点修正のみでございまして、今般策定されました新たな国家安全保障戦略

等の内容そのものは反映されておられません。

○片岡委員 分かりました。これからは構想を基本計画とタイミングを合わせて整備していく必要があると思いますので、ぜひ深掘りと進化を進めていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○河西局長 今おっしゃったように、年明けから相当大車輪でやらないといけないと思っております。安全保障関係は構想という形で、さらに、安全保障に限らず、民生分野、科学分野も併せて、基本計画自体を見直していくということでございまして、年明けから先生方にもたくさん御負担をおかけすることになるのではないかと思っておりますが、何とぞよろしく願いできればと思っております。

○片岡委員 大体同じぐらいのときにテンポを合わせて構築、策定するということがよろしいのですか。

○河西局長 はい。その具体的な進め方は、今、政府の中で関係省庁と調整しているところでございますが、いずれにしましても、どちらかを待って、どちらかをその後というスケジュール感では間に合わないと思っておりますので、同時に進めていくということだと思っております。

○櫻井委員 関連なのですが、政府の構想を取りまとめるというのは、どこに書いてありますか。

○河西局長 「国家安全保障戦略について」の23ページでございまして。エの直前でございまして。「このような宇宙の安全保障の分野の課題と政策を具体化させる政府の構想を取りまとめた上で、それを宇宙基本計画等に反映させる」ということでございまして。

○櫻井委員 国家安全保障戦略の文書を拝読しまして、なかなか興味深かったのですが、15ページかな、気候変動のところ、この文章の中では、安全保障という言葉はいろいろな使われ方をされていて、例えば気候変動対策についてです。力ですが、気候変動自体が人類の存在そのものに係る安全保障上の問題だという言い方があったり、16ページに行くと、人間の安全保障という言葉も出てきて、安全保障という言葉が広範になっています。特に、気候変動対策については、今日の資料1ですが、2の災害対策のあたりと、地球規模課題の貢献がありますが、こことも連動してくる話で、どのように整理するのかが一つポイントになるだろうということで、安全保障の中に入れるのか、入れないのかということと関連づけをしっかりとやらないといけないだろうというのが気になったところです。私は、気候変動自体が安全保障の話だとストレートに言われたことはあまりないような気がするのですが、もし解説があればいただきたいです。

2点目は、防衛の文章ですが、12ページの技術力です。上の（4）に、技術

力は大事という点に関し、この文章の中で、科学技術的な問題がいろいろなところで言及されているのですが、官もあるし、民もあるし、高い技術力云々というフレーズもありますが、我が国は、こういう宇宙関連等を念頭に置いた技術について、技術力が高いという前提が成り立っているのだろうか少しその辺りが理解がどうかという気がしています。全体として、技術の話分解して、分析して、領域ごとに考えていかなければいけないのではないかと、広げるといふ話をするのはいいのですが、その前に積み上げの話がないと広げられないので、準備作業が必要かなと思っております。

○河西局長 この文書全体につきまして、NSSのほうで安全保障という観点から取りまとめていただいておりますので、気候変動との関係のところまで、私のほうで御説明できる能力はないのですが、一応、考え方といたしましては、今、櫻井先生からお話をいただきながら、こういうことかなと思いましたが、宇宙の世界では、宇宙を4つの国益に貢献していけるように使おうということでございます。その一つの国益が、地球環境問題への対応となっているのが、今の基本計画の構造でございます。したがって、気候変動問題は安全保障というのか、否かを問わず、いずれにしても、宇宙を使って、気候変動問題にも貢献していこうと。これは引き続き、今後の議論の中でも、そのラインで議論していくのが一つあるのではないかと考えているというのが環境との関係で、今お答えできる範囲のことでございます。

それから、技術力のところは、この委員会でも後藤委員長、中須賀先生から御指摘があったように記憶しておりますが、一体、宇宙が1周遅れ、2周遅れになっているのか、あるいはそういうことではない、世界のトップを走っている分野もあるのだという議論をこの委員会でもいただいていたところかと思っております。したがって、基本計画の見直しにおきましても、技術の分野は、今、櫻井先生からいただいたように、分野領域によって、どこが進んでいて、どこが遅れているのか、そういった中で、日本としてはどこに、どう注力していくべきなのか、全部ができないのであれば、どこにプライオリティーを置いていくべきなのか。そういった観点で、技術のところについても議論を深めていくことが必要なのではないかと思っております。年明けの議論の中では、そういったこともぜひ御議論いただければと思っております。

○篠原委員 資料1の総合基盤強化の一番下の人材育成なのですが、この文章だけを見ると、プロジェクトに参画する機会を提供する等を通じてとありまして、私は、何となく学を念頭に置いているイメージがするのです。もちろん、学だけではなくて、今御議論があったように、昨今の我が国の技術力の低下は、技術の継承が若い人にミッシングリンクみたいなものがあって、うまくいって

いないとか、日本全体でとにかく若者のモチベーションが下がりがまくっている。それは学だけではなくて、民も、官もだと思っています。ですので、人材育成は、ぜひ産官学トータルで若手を育成することを念頭に、進めていただければと思っております。それに併せるという話ではないのですが、学です。今御議論があった安全保障の話は、例えば今御説明いただいた23ページには官民と書いていますね。もちろん、オールジャパンでやるには、宇宙開発は産官学が一体となってやるべきだと私は思うものの、安全保障が出てくると、この国は多分、学はうまく乗れないので、今御説明いただいたように、例えば気候変動対策も安全保障に組み込まれてしまうと、学が乗りにくくなるので、安全保障の部分と、学の乗りやすいテーマと上手に分けていただければ、学としてやるべきというか、やりたいところ、官民でやるべき安全保障等がうまく回るのではないかと考えておりますので、その辺を念頭に置いてお進めいただければと思いました。

○河西局長 そういった点をうまくプラクティカルに物事が進むように、知恵を出していきたいと思っております。

○常田委員長代理 今、篠原先生がおっしゃったことは、プラクティカルな面で非常に重要で、日本国としては、そこを改善していかないと、産学等の連携を図って、宇宙での活動を展開していくところで足を引っ張られるようなところがあって、今は、そこを避けて、うまくやるという面もあると思うのですが、いつまでもそればかりでいいのかなという印象も持ちます。

○篠原委員 安全保障のところは、学術会議レベルの話になっていますし、学のところはなかなか難しいと思うのですが、若手育成に関しては、学だけではなく、産も結局、若手を育てないと、ここのところ頻発したああいう問題が、技術の継承という話になっているように聞きますので、ぜひ学のみだけではなくて、若手がそれこそ夢を見るような育成を本当にやってほしいと思っています。

○後藤委員長 それでは、今、各委員からいろいろとコメントをいただきましたが、今の御意見に対して、各省庁からコメントがあれば、お願いします。

○河西局長 ぜひとも年明けに向けた意気込み等をお願いできれば、大変ありがたく思います。

○文部科学省 文部科学省としては、JAXAと一緒にあって、基礎研究、人材育成に力を入れていくという状況でございます。官の側から産の若手育成に直接アプローチするのはなかなか難しい面もあるかと思いますが、JAXAと産業界との連携を通じて、できるだけ産業界にもいろいろなプロジェクトに加わっていただいて、それを通じて、若手に技術の伝承ができるようにということで進めていければと思っております。

それから、先ほど事務局長からお話がありましたが、各種衛星の打ち上げのタイミングに影響を与えてしまっておりますH3の打ち上げでございますが、現在の状況をお伝えさせていただくとすれば、各種の試験が今のところ無事に終了しているということでございます。今回の工程表では、今年度内に打ち上げということで記載していただいておりますが、今、それに向けて最終的な調整局面にあるということでございまして、恐らく、間もなく打ち上げの日を調整した結果、公表させていただけるのではないかと考えているところでございます。

○櫻井委員 学術会議の問題は内閣府のご担当ですが、文科省も関係していると認識しておりますので、その立場からのコメントもいただければと思います。

○文部科学省 文科省を代表して発言してございますので、立場を分けているつもりはありませんが、今、先生がおっしゃったのは、安全保障と学問との関わりみたいなところですか。

○櫻井委員 そうですね。

○文部科学省 基本的に、今、学術会議のほうでいろいろと検討していただいておりますが、我々は学術会議の直接の所管ではありませんので、それを横から見せていただいている状況でございます。我々この工程表なり、宇宙基本計画を実行していく立場とすれば、どういうやり方が最終的な目標に到達するのに一番いいのかということを考えながら、いろいろなステークホルダーとお話をしながら進めていければと考えてございます。

○後藤委員長 よろしいですか。

○櫻井委員 技術的な事柄だけでなくそういうことを言うてくださる方も一緒に来られたらよろしいのではないかと思います。防衛の文書もそうなのですが、いろいろなことが相対化しているという話が出てきますね。有事と平時とか、文系、理系のそういう区分も極めて相対化が語られる中で、国境のない宇宙でどういうプロジェクトをやっていくのかということになりますと、トータルな議論が必要です。こうした委員会が議論する場になっているのですから、もう少し踏み込んだお話をいただくと、有意義かと思っておりますので、今後、御検討下さい。

○防衛省 今回、防衛省におきましては、国家防衛戦略、防衛力整備計画を定めさせていただいたところでございます。その中におきまして、まず、防衛力の抜本的強化を5年以内に行うということでございまして、ここにおきまして、宇宙の分野は、引き続き最重要な領域でございます。

また、今回の戦略の策定におきましては、我が国の防衛省・自衛隊の防衛力の抜本的強化とともに、国全体としての防衛体制を強化していく必要があるだろうということでございまして、そういう観点で、宇宙につきましても、政府

全体でその能力を強化していくということでございます。

また、その中におきましては、特に宇宙空間につきましては、防衛省・自衛隊として、JAXAをはじめ関係機関、または民間事業者との間で研究開発を含めた協力・連携を強化していきたいと思っております、今回の戦略、計画を踏まえて、そうした連携をしっかりと強化していきたいと考えているところでございます。

○片岡委員 戦略3文書策定、御苦労さまでした。非常にいい形になったのだと思いますし、宇宙にしてみれば、宇宙安全保障構想ですか、実質上、戦略みたいな形になると思いますが、ここにどうやって具体的に書き込んでいくかということがこれから非常に重要だと思っております。

宇宙安全保障にとって、これからの5年が非常に大きな分かれ道になると個人的には認識していますので、ぜひ具体的なプロジェクトを具体化していく。

あと、スピードをいかに重視していくかということが極めて重要だと考えています。そのところは、宇宙基本計画、宇宙安全保障構想をつくりますので、ぜひその中に具体的に書かれるようにやっていただきたい。

あと、宇宙は、宇宙領域での日米安全保障協力が非常に重要で、どうも最近、日本はSSAと準天頂衛星のホステッドペイロードが進んでいるのですが、その後はタマがなかなかない。今、どうもイギリスが非常に目立ってきてしまって、アメリカの国際協力の中心は、もともとファイブアイズですが、イギリスが中心になってしまっているところがありますので、日米協力の具体的なところもスピードアップしていくのが非常に重要になるのではないかと考えていますので、ぜひ年明けに議論させていただきたいと思っております。

○山川理事長 今回、宇宙基本計画工程表の改訂をしていただきまして、明確な方針を示していただきまして、ありがとうございます。

また、国家安全保障戦略と防衛関係の3文書も、明確にJAXAの位置づけ等を示していただきまして、我々としても今後、様々な観点で貢献させていただければと思いますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

○鈴木委員 宇宙安全保障部会の部会長をやっております、鈴木でございます。

先ほどの防衛省のお話と、片岡委員のコメントにもありましたが、恐らく、これからの課題として喫緊に進めていかなければいけないのは、日米協力の中でも、ミサイル防衛等に関する小型コンステレーションの部分だと思います。

日本は、民間企業でも、小型コンステレーションの事業がまだ始まったばかりということと、超音速滑空弾の対処に関する準備、システムづくりは、当然、一国ではなかなかできないものですので、今、米国が進めている状況をきちんと把握して、できる限り早いうちにやっていく必要があるわけですが、そのための要素技術も日本でしっかりと持つておかなければならないと思っております。

す。

小型コンステレーションは、アメリカでは民間企業が既に始めているところ
です。その部分で日本はやや遅れ気味のところにありますので、ぜひこのと
ころにより注力して進めていくのがよろしいかと存じます。

○松尾委員 今回、防衛安全保障戦略とか、その中身等においても、宇宙の利
用が重要視されていることもあります。

また、今のお話にもありましたように、民間においてもかなりいろいろなメ
ーカーといいますか、企業が立ち上がりまして、様々な取組が行われている中
で、私は、輸送系ということもありますので、そういった実際の宇宙へのアク
セスを考えますと、現状ではやや力不足だなというところがあります。

特にコンステレーションを頻度よく上げるとか、さらに民間を育成するとい
う意味では、そういったところを育成しなければ、ここに書かれておりますよ
うな様々な事業とか、今後の打ち上げに対する需要にも。

最初に思っておりましたのは、それほど打ち上げ等は十分にあるのかなと思
っておりましたが、今後のこういった防衛のことを考えますと、それなりのス
ピード感を持って対処する必要があるのかなと考えております。

○遠藤委員 一昨日の基本政策部会と安全保障部会の合同会議でも申し上げた
のですが、そこで申し上げたことをもう一度繰り返させていただきますと、2
点ございまして、3点目のアルテミス計画は、機器の開発については具体的に
明示されているのですが、Gatewayを利用した技術実証とか研究等と書かれてい
るところは、まだ具体的なことが詰まっていない状況かと理解しました。

この辺りをしっかりと詰めていただいて、具体的に進めていただくことが重
要かと思いますので、これからの議論をもうちょっと深めていただきたいと思
っております。

もう一点は、4番目で申し上げたことは、昨今、宇宙の委員会に出ています
と、非常にベンチャーに勇気づけられるようないろいろな施策とか、エンカレ
ッジのいろいろなセミナーとかが開催されていることは理解しているのですが、
3文書の中にも、防衛産業の育成についてしっかりと言及されている。

宇宙産業についても、いわゆる従来型の企業も非常に重要な役割を示してい
る。そこからベンチャーに波及していく技術であったり、人材があったりもあ
りますので、その辺りもしっかりと宇宙のほうでももう一度再認識していただ
きたいと2点申し上げました。

今日は、櫻井委員、篠原委員から、安全保障と学との関連性について言及が
ありましたので、せっかくなので申し上げたいのですが、3文書もできて、安
全保障という言葉が世間でも、こうした審議会の中でも当たり前に使われるよ
うな時代になってきましたので、デュアルをどのように学に引き受けていただ

けるかということをしつかりと政府内で議論していただきたいと思っております。

今のままでいけば、どうしても避けたいという思いが学の側にあり、それでは全く進まないということにもなりかねませんので、仕組みづくりを含めて、抜本的な見直しをいち早くやっていただかないと進まない。

宇宙は、材料としては一番いい業界、産業体、学术界であろうかと思っておりますので、そこを手始めに進めていただきたいと思っております。

○後藤委員長 9月に常田委員長代理と三菱電機の鎌倉工場の視察に行っていました。技術的なレベルはいろいろと大変高いと思うのですが、それぞれのメーカー、民間企業は非常に苦しんでいる。例えば宇宙関連のビジネス、あるいは防衛関連のビジネスだけだと、はっきり言えば、なかなかその分野で黒字にならない。そうすると、昨今、いわゆるガバナンスの問題でいうと、株主、あるいは特にアクティビストからそのところを狙われる。企業価値向上という観点から、いつまでそういう赤字部門を引きずっているのだという議論があるわけです。そのところは、各社とも非常に苦しんでいるところだと思います。

一方と言えば、スタートアップ企業も、日本でそれなりにいろいろと頑張っているだろうと僕は思うのですが、一つ言えるのは、いわゆる大企業とスタートアップ企業との連携がどれだけ図られているかというのも、多分、これからの大きなテーマになってくる。

もっと言えば、いわゆる大企業がもっとスタートアップ企業を活用するようなことも考えていくべきなのだろうと。それによって、スタートアップ企業も育てられる。

多分、人材の育成にも資するのだろうし、今までやってきた大きなメーカーにとっても、多分、いろいろな技術分野で新鮮なアイデアというか、スタートアップ企業からのいろいろな知見も得られるのではないかと思っております。私とすれば、これはこれからこの委員会でもいろいろと議論の俎上にのせていきたいと考えております。

○櫻井委員 防衛省と国交省もおられるので、自衛隊と海上保安庁の関係なのですが、宇宙に関係しては、宇宙空間の利用を強化するという指摘があるのですが、国家安全保障戦略の中に出てきますが、海洋安全保障の議論とパラレルに議論できるのかという問題があります。理論上は、領海警備は警察と防衛の中間にあるような概念で、そういう任務を担うのが海保であると理解されているように承知しています。この防衛文書を見ますと、22ページあたりに出てきますが、海上保安能力を大幅に強化して、有事のときは防衛大臣による云々ということで、その差を相対化しようとしているようにも読めますが、そういう理解でよろしいかお伺いします。。

ただ、そもそも論としては、自衛隊と海上保安庁は全く違う、性質の異なるもので、ぎりぎり言えば、接点がないようなものとして出発しているわけです。

そうすると、宇宙空間の利用という場面で、議論としては、そういう前提を取り払って議論していいのか、理論上の課題があると思います。

そういう認識はおありですかというか、もしなければ、そういう問題設定もしていただくと、議論としては、頭の動かし方としてはいいのではないかと思いますので、その点を指摘させていただきたいと思います。

○防衛省 まず、海保と防衛省との関係について申し上げますと、まず、あらゆる事態において、しっかりと政府として対応する上で、海上保安庁と防衛省・自衛隊がしっかりと連携することは非常に大事なことでございます。そのために、今、各種の共同訓練なども実施してきているところでございます。

今議論になっておりますのは、既に現行の法律の中におきまして、有事の際には、防衛大臣の下に、海上保安庁が統制に入ることになっております。

他方で、実態を見てみますと、実際の有事の際のそうした統制の要領がしっかりと定まっていない。

さらには、これまで実際の武力行為自体を念頭に置いた共同の訓練みたいなものも行われていないということでございまして、それでは、今後、あらゆる事態にしっかりと連携し、対応していくという観点から、改善の余地があるだろうということでございまして、まず、統制要領についてどうするのかということについて、今、検討に着手したところでございます。

また、今後、これまで共同訓練などもやっておらなかったところでございますので、そうしたことの実施も検討していきまして、海上保安庁と防衛省がそういう有事の部分も含めてしっかりと連携していくようにしていくということでございます。

その上で、御指摘のとおり、海上保安庁は、あくまで非軍事といたしますか、あくまで警察組織でございます。私どもと性格は異なるものでございまして、統制に入ったからといって、その性質は決して変わるものではなくて、有事の際には、あくまで非軍事の組織として防衛大臣の下での統制に入ってくるという関係だと理解しておるところでございます。

○櫻井委員 海上警備行動にも関連しますが、多分、今のような議論をミニマムにセットしておられて、これから実践的に動けるようにするという問題意識なのだと思うのですが、理屈からすると、両者の違いを無視して、宇宙空間における利用の強化としていいのかという問題は残る。フロンティアの話なので、しなくていいという結論もあるいはあるのかもしれませんが。そこは、思考の過程としては、当然検討しておくべき問題であり、そこを乗り越えた上で、どうするのかということになってくるのだろうと思います。

○河西局長 なかなかそこまで思いが至っておりませんので、引き続き御指導いただきながら、年明けに議論させていただければと思います。

○鈴木委員 先ほど委員長がコメントされた、従来型の宇宙産業とスタートアップとの連携という話でいいますと、御参考までにとのことなのですが、アメリカの企業では、スタートアップとレガシーはなかなかうまく連携していないのですが、欧州では、エアバスが積極的にコンステレーションをやっている会社との連携を深めていまして、私がいろいろと調査した中で出てきた話は、スタートアップの場合、コンステレーションの衛星は、大量生産すると。衛星は、これまで一品物で作ってきて、作り方が全く異なると。

いわゆる製造業としてのモードの変化についていかなければならないから、レガシーもこうしたスタートアップの物作りの仕方を学んでいかなければならないのではないかと申していて、そこは我々も参考になるところかと考えています。

これまでの宇宙開発の在り方は、プロジェクトがあって、衛星一つ一つを作り込んでいく技術開発をして、それを盛り込んでいくという位置づけにあったわけですが、数十機、数百機の同じ衛星を大量生産していくのとは訳が違う。

これからの宇宙開発がどちらの方向に進んでいくのかにもよると思うのですが、従来型の一品物と同時に、大量生産していくのは、先ほど私がコンステレーションの話で、日本は遅れていると言ったところの一つには、我が国のそういう物作りの仕方がまだ十分そこに整っていないところがあるかと思えます。

なので、今後、そういったところで、単に技術開発だけではなくて、いわゆる製造工程とか物作りの在り方そのものに関するある種のモードチェンジも目指していくような政策もこれから考えていかなければならないのではないかと考える次第であります。

委員長のコメントに対する補足をさせていただく形になりました。

○後藤委員長 今、鈴木委員がおっしゃったとおりでして、私は、これは読んだ話ですが、要するに、イーロン・マスクが何でスペースXをあれだけやったのか、あるいはテスラをやったのか。

彼は、それまでの既存の企業、メーカーとは全然違う発想でアプローチした。特に彼は物理学か何かのあれなのです。

例えばメーカーが工場を工場として考えて、そういう中でどのように展開していくかというのは、今までの普通の発想なのだけれども、マスクは全然違う発想で、工場自体を一つの製造物みたいな形で考えている。

だから、そのところが既存のメーカーと全然違う発想で、あれだけのものが短期間のうちに出来上がったということは、多分、我々として考えるべきテーマの一つなのではないかと思っております、ぜひこの委員会でも、そうい

う観点で皆さんの知見というか、御意見をいろいろといただきたいと思います。
○森総理補佐官 皆さん、今回工程表の改訂を御協力いただきまして、ありがとうございます。 宇宙政策自身が純粋な技術開発よりは、安全保障の議論、あるいはビジネスの議論という形でさま変わりしてきております。

そういう意味では、今回、それに対して非常にフォーカスを当てていただいて、いろいろな目標をきっちりと定めていただいたこと、私どもとしても、これを励みに、あるいはこれをしっかりと守るべく努力していきたいと思っております。

今お話があったように、ベンチャーの議論は、私たち今の内閣でも、スタートアップ元年ということで、ベンチャー企業をいかに育てていくのかという政策を今まさにこの1～2週間かけて取りまとめしておりますし、スタートアップといろいろと議論していく中でも、宇宙という分野が大きな取り組む領域であること自身は、各方面からの御提案でも明らかになっております。

宇宙政策での議論、また、スタートアップをサポートしていくために、SBIRとかそういった様々な研究費用を提案する、あるいは融資を考えていくところの政策と一緒に盛り返していきたいと思っておりますので、引き続き御指導いただければと思います。

○後藤委員長 ありがとうございます。皆さんからいろいろと御意見いただきました。本日の議論の取りまとめをしたいと思っております。

今日もいろいろと皆さんから御意見をいただきましたが、事務局案について、これは事務局からコメントしてもらいたいものだけれども、修正を施す部分があるのか、ないのか。

ない場合には、私に御一任していただきたいし、あるのであれば、それはまた事務局と相談することになります。事務局からその辺のまとめのコメントをしていただきたい。

○河西局長 ありがとうございます。

本日は、私どもからすると、非常に目線の高い、今後の宇宙政策の在り方、年明けの基本計画の見直しでの方向性といった点での御指摘を多々承ったと思っております。そういう意味では、今後の議論に活かしていきたいと思っております。

一方、この工程表につきましては、必ずしも本日、修正すべきということではなかったのではないかと受け止めておりますので、よろしければ、こちらで御了解いただければと思っております。

○後藤委員長 今、河西さんから、皆さんの御意見を伺った上で、修正を施す必要はないのではないかというコメントがありましたが、それでよろしいですか。

(首肯する委員あり)

○後藤委員長 ありがとうございます。

それでは、特段の修正は必要ないということで、本案の取扱いにつきまして
は、私に御一任いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」と声あり)

○後藤委員長 ありがとうございます。

それでは、本日の委員会は、以上で閉会といたします。

以上